

未来へのとびしマーレ構想協議会

私達は、10の生業（なりわい）を生み出し、子育て世代が移住できる環境（教育・居住・仕事）、夢と希望と活気が溢れるとびしま海道を実現したい。

【主な取り組み】

1. 欧米豪外国人が来島できる仕組み

- 多言語対応（英語）ホームページを開設し、レンタサイクル予約と決済システムの構築。レンタサイクルで繋ぐ海、山、人を生かした様々な体験メニューの開発。



2. 紫蘇（しそ）を使用した特産品開発

- 下蒲刈島菅原繁隆さんの無農薬の紫蘇を使った、下蒲刈島の良さ（歴史、文化、伝統）を盛り込んだ、売れる商品づくり。



3. 地域とスポーツイベント密着化

- イベント民泊制度を活用し、宿泊費用など、地域に還元できる仕組みを構築。（ウルトラマラニックイベントなど）



NEWS なつ

農泊活性化へ協議会設立 子育て世代の移住環境目指す

ビルックス(コテージ楓ヶ浜)

高島 俊思さん



5月13日、呉市の企業や地域のまちづくり協議会などでつくる

「未来へのとびしまレ構想協議会」(藤井聖会長「ビルックス社長」)を発足した。とびしま海道に農泊などで観光客呼び込み、関連の生業を生み出すことで子育て世代が移住できる環境を目指す。

「2015年、とびしま海道地域おこし協力隊として、下蒲刈島に移住。住めば住むほど、この地域が好きになり、地域の可能性に夢が膨らんでいます。そのためには、まずは知っ

てもらおうこと。コテージ楓ヶ浜のレンタルサイクルを核に、ホームページの多言語化などで外国人への情報発信を強化します」

1974年3月26日生まれ、愛知県出身。近畿大学農学部を卒業後、建設機械のレンタル会社に勤務。体を動かすことが好きで、南国パラオでツアーガイドも経験。「島暮らし」に憧れて下蒲刈島を選んだ。趣味はトライアスロン、マラソン。地域おこし協力隊の卒業記念として100キロのウルトラマラソンに単独挑戦し、見事完走を果たした。2018年12月にはその行程をコースにした大会「とびしまウルトラマラニック」を初開催。19年も開催を予定する。

「踏み出す勇気と続ける根性があれば大概のことはできると、今本気で思えるのはこの地域との相性の良さが一因だと思う。これを生かして、地域に勇気を与えられる存在として頑張りたい」

呉・東広島

安芸灘諸島に泊まって観光 地元住民が協議会

本年度中にHP 漁体験やジャム作り



設立総会で活動を話し合うメンバーたち

呉市南東部の安芸灘諸島を舞台に住民たちが、観光客が農山漁村に滞在する「農泊」の仕組みづくりなど新たな魅力創出に乗り出す。多種多様なかんきつ、瀬戸内海の恵み、多島美といった豊富な観光資源を活用。雇用も生み出し、子育て世帯が定住しやすい島々を目指す。(見田崇志)

結成したのは「未来へのとびしまレ構想協議会」。下蒲刈島から東へ連なる同諸島の地元のみならず、協議会、金融機関、自転車愛好家をつくるNPO法人、宿泊施設、飲食店など個

人・団体が参加する。「農泊」では体験メニューとして、かんきつの収穫や精油、ジャム作り、定置網や漁船での漁、レンタサイクルなどを想定する。外国人向けホームページ(日

文)作成や、新たな特産品開発を進める。本年度中にHPでの予約システムや提案供メニューを作り、受け入れ態勢を整える。今月中旬に下蒲刈町であった設立総会。同町のコテージ楓ヶ浜ビルックスライドステーションを指定管理するビルックス(呉市の藤井聖社長が協議会の代表に就き、「島々の魅力を結び付け、具現化してきたたい」と抱負を述べた。

クリック

安芸灘諸島 呉市南東部の瀬戸内海に東西に並ぶ島々。呉市の本土側(川尻町)と下蒲刈、清刈、豊浜、豊の4町、愛媛県今治市までの7島を7本の橋で結ぶルートは「安芸灘とびしま海道」の愛称で親しまれている。

「農泊」は農林水産省が2017年度から取り組む振興事業で、同協議会も本年度の支援対象。活動に応じて2年間、資金が交付される見通しで、計画の内容を国が審査している。構想の発案者で下蒲刈町の元地域おこし協力隊員、高島俊思さん(45)は昨年12月、同諸島100キロを走破する大会「とびしまウルトラマラニック」を企画し、全国から約300人を集めた。その体験を基に、宿泊施設の不足が見込まれる際に民家を利用できる「イベント民泊」も提案し、地元への利益還元を模索する。高島さんは「仕事をつくり、自分たちの島の明るい未来を実感できる活動にしたい」と意気込む。